

平成 26 年度第 1 回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会
会議録

1 日時：平成 26 年 7 月 22 日（火）午前 10 時 00 分～午前 11 時 43 分

2 場所：千葉中央コミュニティセンター 4 階 41 会議室

3 出席者：

（1）委員

大原明保委員（部会長）、河合謹爾委員（副部会長）、善積康夫委員、古賀学委員、
西田直海委員

（2）事務局

今井経済部長、村杉経済企画課長、川島集客観光課長

4 議題：

（1）千葉ポートタワーにおける指定管理者年度評価に関する事項について

5 議事の概要：

（1）千葉ポートタワーにおける平成 25 年度の年度評価についての審議を行った。

6 会議経過：

【村杉経済企画課長】 それでは、皆様おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。定刻となりましたので、第 1 回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めさせていただきます経済企画課長、村杉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着席にて説明をさせていただきます。

それでは、議事に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。配付資料につきましては事前に送付させていただいております。まず、資料 1 「千葉ポートタワー指定管理者評価資料」、分厚いものでございます。それと、参考資料として 1 から 3 をお渡ししてございます。参考資料の 1、2、3、ございますでしょうか。不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、会議の成立についてご報告させていただきます。本日の出席委員は総数 5 名のうち、5 名ご参加いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第 10 条第 2 項によりまして、会議は成立しております。

次に、会議の公開及び議事録の作成についてです。お手元の参考資料 1 をごらんください。「千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」をごらんください。これは平成 22 年 7 月 27 日の委員会における決定事項でございます。一番下段にございます「3 部会の会議への準用について」にございまして、部会にもこの会議については準用されることとなっております。したがって、

1 番にございます「会議の公開の取扱い」(1)のとおり、本日の会議は公開となります。
なお、現在、傍聴は申し込みがないということでございますので、ご報告をさせていただきます。また、議事録につきましては、「2 議事録の確定」(1)のとおり、事務局案に対する部会長の承認により確定することとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、経済部長の今井よりご挨拶を申し上げます。

【今井経済部長】 おはようございます。4月1日付で経済部長に就任いたしました今井でございます。昨年度までは経済企画課の課長といたしまして、委員の皆様方には大変お世話になりました。今年度も引き続きましてどうぞよろしくお願いいたします。

なお、本来であれば、この場で経済農政局長の神谷からご挨拶申し上げるべきところでございますが、あいにく本日別の公務が入っておりますので、かわりまして私からご挨拶を申し上げたいと思います。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、当部会にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。また、日ごろより本市の経済農政あるいは市政各般にわたりまして多大なるご支援、ご指導をいただいておりますところ、厚く御礼を申し上げます次第でございます。

本日の観光部会でございますが、所管の施設の評価といたしましては、千葉ポートタワーにおきます昨年度の管理運営に対する年度評価をご審議いただきます。委員の皆様方からは、豊富な経験と専門的な立場から、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、今後の管理運営に反映させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、昨年度まで当局の所管施設で、25年度末をもちまして閉館いたしました千葉市ユース・ホテルでございますが、本年度より都市局の所管となりまして、昭和の森キャンプ場とともに、昭和の森フォレストビレッジとしてリニューアルオープンいたしましたので、この場をおかりいたしましてご報告申し上げます。

以上、簡単ではございますが、開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【村杉経済企画課長】 なお、事務局側の出席委員につきましては、お手元にお配りしております座席表により紹介にかえさせていただきますと存じます。

それでは、早速ではございますが、議事に入らせていただきます。ここから、大原部会長様に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【部会長】 ただいまから、平成26年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を開会いたします。

それではまず、本日の議事の流れについて、事務局より説明をお願いいたします。

【村杉経済企画課長】 私のほうから説明をさせていただきます。座って説明させていただきます。

本日の議事の流れについて、ご説明をさせていただきます。本日は、千葉ポートタワー1施設の年度評価についてご審議をいただきます。年度評価は、今後の管理運営をより適正に行うため、各年度終了後、市が履行状況を確認し、それを選定評価委員会に報告するとともに、意見を聴取するものでございます。

本日の議事の流れにつきましては、まず、施設所管課でございます集客観光課から、施設の評価に係る資料についてご説明いたします。次に、委員の皆様から質疑応答並びに管理運営のサービス向上や業務効率化の方策、評価する点、法人の財務状況などについてご意見をいただきまして、それを事務局のほうで意見案として取りまとめ、ご説明させていただきます。なお、意見案を事務局で取りまとめている間につきましては、委員の皆様にはしばらくご休憩をしていただきたいと存じます。その後、意見案をご審議いただきまして、最終的に部会の意見として決定させていただきます。

なお、平成 22 年度の委員会におきまして、部会の議決事項を委員会の議決事項とする旨、決定しておりますことから、ここでご協議していただきました意見につきましては、委員会として市に答申していただくこととなります。

また、当該意見につきましては、資料 1 の頭につけさせていただいておりますが、評価シートの「6 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」欄に掲載され、ホームページ等で公表されます。

説明につきましては以上でございます。

【部会長】 それでは、議題（1）、議題は 1 つしかないんですけども、千葉ポートタワーにおける指定管理者年度評価に関する事項についてに入りたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

【川島集客観光課長】 集客観光課の川島でございます。座って説明させていただきます。

それでは、お手元に準備をさせていただいております平成 26 年度千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会評価資料、資料 1 を開いていただきまして、その次に平成 25 年度指定管理者評価シートというシートがございます。それでは、この評価シートに基づきまして、まずはご説明をさせていただきます。評価シートにつきましては、平成 25 年度事業報告書、そして毎月の月次事業報告書及び年 3 回のモニタリングをもとにして作成をしておりますのでございます。

初めに、基本情報でございます。施設管理者は、株式会社三越環境ビル管理、指定期間は平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までとなっております。

2、管理運営の実績についてでございます。（1）の主な実施事業は、施設の管理運営業務、維持管理業務、経営管理業務の指定管理事業と、1 階売店での物品販売業務、3 階のラウンジ運営業務、施設屋内外でのイベント事業の自主事業でございます。

（2）利用状況でございます。利用状況は、有料利用者数 8 万 788 名、無料利用者数 4 万 2,834 名、合計で 12 万 3,622 名の利用がございました。平成 25 年度のポートタワーの運営でございますが、展望目的の来館者が多いため、夏は高温、冬は大雪をはじめ、雨や曇りなど天候不良が大きく影響したところでございます。展望によらない来館目的を促すためにイベントの実施もほぼ例年どおり実施したところでございますが、加えて、積極的に広報も行っておりました。しかしながら、残念ながら数字には反映できていない状況でございます。今後は、新たな夜景イベント等の取り組みを検討しているほか、交通アクセスの改善やポートパークの夜間の安全性といった課題もございますので、指定管理者とともに、ポートパークの所有者である千葉県と協議を重ねて改善を図ってい

きたいと考えております。

(3) の収支状況でございます。収入実績でございますが、指定管理委託料、利用料金、自主事業でございますが、合計 1 億 6,608 万 2,693 円でございます。計画比 87.3%でございます。支出実績でございますが、人件費、事務費、管理費、自主事業、合計で 1 億 6,867 万 315 円でございます。計画比としては 88.8%でございました。決算額は 258 万 7,622 円の赤字となっております。

次のページ、2 ページをお開きください。(4)、(5)の指定管理者が行った処分件数及び市への不服申し立て等はございませんでした。

また、(6) 情報公開の状況は、公文書開示請求もございません。

3 番の、利用者ニーズ・満足度等の把握についてでございます。(1) のアンケート調査でございますが、アンケート調査の結果については、平成 24 年は 2,944 人、23 年が 2,891 人でございましたが、2,966 人という集計を得られました。集計方法は、アンケート箱の常設、それからスタッフから入館者への声がけなどをさせていただいております。調査の結果は記載のとおりでございます。また、アンケートの質問項目に、今年度から「来館目的」の項目を追加いたしました。

結果は、1 位が展望、2 位が近所まで来た、3 位が夜景という回答でございます。この回答をいただきました今後の対策といたしましては、まず展望という部分について、展望室の快適性を整える、あるいは展望に関する情報発信を行ってまいりたいと考えております。それから、近所まで来たというご回答につきましては、ポートパーク利用者による来場及び売店の利用向上が必要だと考えております。それから夜景という回答につきましては、夜景に特化したプロモーション、開館時間の調整などを検討していきたいと考えております。

それから、③アンケートによる意見、苦情への対応については、記載のとおり、ご指摘いただいた事項に対して可能な限り迅速に対応しております。さらに、交通アクセスについてのご意見につきましては、今年 6 月 30 日より千葉駅西口から千葉ポートタワー線のバス路線の改編が行われました。参考資料につきましては、配付させていただいておるとおりでございます。まだまだ便数は少ないのでございますが、利用者に周知を図り、増便につなげていきたいと考えておりました、千葉ポートパーク周辺施設利用促進連絡協議会、これは 26 団体の構成メンバーでつくっておる協議会でございますが、こちらのほうに対して、バス路線の利用者向上の協力を促したいと考えております。

(2) の市に寄せられた意見、苦情につきましてはございませんでした。

3 ページ目に移ります。4 の指定管理者による評価でございます。季節に応じたイベント等の積極的な開催により集客策に努めたこと、また、周辺施設と連携した集客策を実施したこと、設備の日常点検、定期点検を通じて施設の維持管理に努めたこと、利用者数の結果は天候による影響が大きかったこと。次に、来館者数の減少に対して、夜景、展望目的や、家族で楽しめるイベント目的、高齢者の集客策など、時期や世代に応じた来館ターゲットを明確にした入館者拡大策を図っていくという報告を受けているところでございます。

5 番目の、市による評価でございます。まず、履行状況でございますが、A3 判の資

料の指定管理事業対照一覧表でご説明をさせていただきます。次のページにございます、A3横、指定管理事業対照一覧表でございます。

(1) 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理についてでございます。①個人情報保護規程の策定では、管理運営の基準に従いまして、みずから個人情報保護規程を作成し、ホームページにて公開をしてございます。また、新規雇用者を含め従業員に「個人情報の取扱いに関する誓約書」を提出させるなど適正に対応しておりまして、ともに2という評価をさせていただきました。情報公開規程の策定についても適正に対応しているため、こちらも2の評価とさせていただいております。

次に、②の行政手続についても、同様に業務マニュアル、その公開状況についても問題点は特に見当たりませんので、年3回、これは7月、12月、3月に行いましたモニタリングレポートによる評価でも特に問題はないという判断をさせていただきまして、2と評価させていただいております。

③の労働関係法令を遵守した労働条件の確保についてでございますが、就業規程を作成し、総括責任者である館長の管理のもと適正に運営されていると考えております。こちらも2という評価をさせていただきました。

④のモニタリングについてですが、先にも申し上げましたとおり、利用者アンケートの項目に来館目的を新たに追加いたしまして、来場者のニーズを集計いたしました。千葉ポートタワーは展望施設であることから、展望目的の比率が39%、約4割と高い結果となっております。この結果を受けて、集客観光課、私どもと協力をいたしまして、昨年の10月、それから今年の2月にはダイヤモンド富士の鑑賞プロモーションを実施いたしました。今後も千葉市内の富士山鑑賞ポイントといったものの認知が広まればと考えております。次へのステップといたしまして、本年は、次に比率の高い夜景について、取り組むべき課題ということで、指定管理者と協議をしているところでございます。また、ホームページ上での要望、意見聴取は常時行っておりまして、適正に行われているという判断をさせていただきまして、2の評価をさせていただいているところでございます。

次に、市民サービスの向上についてでございます。①利用者サービスの向上、②利用者への支援については、前年同様に、適切な管理運営体制が実施されていると考えまして、2の評価をさせていただきました。アクセスの、ホームページによる情報発信については、千葉駅からのバス路線が大きく変更となっているため、ホームページでも周知を図っているところでございます。変更点につきましては、先ほどご提示をさせていただいた資料のとおりでございます。

次に、(3)施設の効用の発揮、施設管理能力についてでございます。①といたしまして利用促進の方策についてでございますが、昨年度同様に特別イベント、既に始まっておりますが夏休みのイベント、あるいは冬のイルミネーション、冬の花火といったところの開催時のチラシの配架、ホームページなどを使いましてイベント情報の更新、それから地域情報誌など広報メディアへの情報発信に取り組みながら、先ほどお話をさせていただきました千葉ポートパーク周辺施設利用促進連絡協議会構成員の方々とも情報共有を図っているところでございます。また、共通バスで行くタワー・工場夜景クルーズ

や千葉湊大漁まつり、昨年は10月に開催したものでございますが、こういった周辺地域でのイベント等を活用した連携といった行動を行っております。こういったところから、2の評価をさせていただいておるところでございます。

1枚おめくりいただきまして、②施設の維持管理、それから③利用料金の設定についてでございますが、管理運営基準や事業計画に従い遵守されているため、こちらについても2の評価をさせていただいているところでございます。

④自主事業の効果的な実施についてでございます。まず、恋人の聖地事業の展開状況でございます。2月にバレンタイン企画、グリコ Pocky&恋人の聖地プロジェクトに参加しましたが、プロジェクト自体のプロモーションも局地的であったため、効果としては弱かったような状況でございました。単発的なイベントではなくて、恒常的に恋人が訪れるような仕掛けづくりを求めていきたいところがございまして、評価については1とさせていただいているところでございます。

次に、1階売店につきましては、売店スペースを改修いたしまして、明るく開けた空間づくりを行いました。また、地産地消の推進のため、県産品のおみやげを多く配置いたしているところでございます。3階ラウンジ事業も、1階売店同様に地産地消メニューにこだわった内容となっております。収入は、来館者数の減少などの影響を受けたのか、目標比及び前年比とも約1割減となっておりますが、季節ごとに商品の品ぞろえや陳列、メニューの変更を行い、対策を講じたことから、3の評価をさせていただいておるところでございます。

次に、イベントの実施状況は、季節ごとに、本年初のイベントを実施いたしました。ポートクイーンコンテスト最終の審査会場としての活用、それから、先ほどお話をさせていただきました千葉湊大漁まつり、あるいはダイヤモンド富士、それから冬花火、イルミネーションといったイベントの実施をしているところでございます。不定期イベントでは千葉テレビさんとのコラボでのイベントの開催を行っているところでございます。結果、イベント収入は前年比51万8,000円の増という結果となりましたこともございまして、評価としては3とさせていただいているところでございます。

それから、マスコットキャラクターの展開状況は、1階売店で関連グッズも販売して、ゆるキャライベント等へも行っているところから2と評価させていただいているところでございます。

それから、管理経費の縮減についてでございます。支出見積の妥当性というところでは、管理運営費は前年比92.7%、実施事業費は前年比101.6%、支出合計はほぼ前年並みというところで、評価としては2とさせていただいております。

②収入見積の妥当性でございます。利用料金収入は、残念ながら計画比では64.2%、前年比で88.5%というところございましたところを勘案いたしまして、1の評価とさせていただいております。利用者数、こちらも前年比1万5,598人の減というところから1の評価とさせていただいております。自主事業収入は、計画比88.8%、前年比に対しても87%というところございまして、2の評価をさせていただきました。売店営業、ラウンジ事業は入館者数の減少を受けて、減少という形にはなっておりますが、イベント収入は予算比120.9%と改善したことから、2の評価をさせていただいているところ

でございます。

以上の評価をもちまして、恐れ入ります、評価シートに戻らせていただきます。市の評価でございますが、利用状況の評価につきましては、集客対策といたしまして既存イベントのPRを強化し、また、新たなイベントに取り組むなど、イベント事業に力を入れたものとなっております。集客しなければならない10月、12月の週末などで、天候不良や猛暑、あるいは大雪の影響を大きく受けまして来館者数が減少し、収入にも影響を受けたと考えております。ちなみに天候のよいGWは、逆に前年比1,542名のプラスという実績も上げているところでございます。

ポートタワーは展望施設なだけに、天候による影響が大きいところがございます。今後、夜景観賞など天候に大きく影響されない魅力づくり、集客ターゲット層を絞った仕掛けづくりや効果的なプロモーションといったものに本年度取り組んでいただけると期待をしているところでございます。

施設の維持管理の評価といたしましては、法定点検を確実に行之、修繕が必要な箇所については適宜報告が行われておること、それから来館者アンケートも前年に続きよい評価を受けていることから適正な運営が行われたものと考えております。

全体的には積極的なプロモーションに努めたほか、施設の維持管理についても適正な取り組みが行われたというところで、総合評価につきましては、S、A、Bという3つの評価基準の中で、評価Aという評価をさせていただいたところでございます。

説明は以上でございます。

【部会長】 ご苦労さまでした。今いただいた説明に対して意見、質問ということでやっていきますが、意見については後ほど部会の意見という形で取りまとめますので、意見であることを明確にしてご発言いただきたいと思います。どうぞ、お願いします。

では、私のほうからまず質問させていただきますが、評価シートの管理運営の実績というのが第2項目にあって、その中で最初に出てくるのが主な実施事業。実施事業のうち、①が指定管理事業、②が自主事業で、このペーパーだと自主事業は2項目だけなんだけど、今の口頭の説明だと自主事業についてはどうなっていましたか。

【川島集客観光課長】 自主事業につきましてのご説明とさせていただいたものは、対象事業一覧表（3）④の自主事業の効果的な実施……。

【部会長】 そうではなくて、評価シートの②の自主事業。ペーパーでは項目は2つですけども、口頭での説明では、自主事業が3つの事業に分かれているような説明ではないかということで確認です。

【川島集客観光課長】 申しわけございません。自主事業としては、これに加えてイベント関係が入ってくるような……。

【部会長】 それを言ってください、もう一度。

【川島集客観光課長】 はい。具体的な内容ということでしょうか。

【部会長】 いや、そちらの言われたことをもう一度言ってください。そのイベント関係ということ。

【川島集客観光課長】 イベントとしては恋人の聖地事業の展開状況として、2月にバレンタイン企画……。

【部会長】 いや、そうではなくて、自主事業が、ペーパーでは2項目しか事業名がないのかかわらず、3項目あるような説明ではなかったですか。その3項目挙げられたもう1つを、もう一度言っていただけませんか。

【川島集客観光課長】 はい。ラウンジ運営業務と、それから物品販売業務。

【部会長】 はい、それと？

【川島集客観光課長】 それから、施設の屋内外でのイベント事業などもあわせて実施させていただいております。

【部会長】 はい、わかりました。そのイベント事業なんですけれども、それはどうしてこの、ラウンジ運営、つまり、飲食と物販とは別建てになっているんですか。【集客観光課職員】 指定管理者の管理運営の基準で申し上げさせていただくところで、まずその基準でいきますと、物販、飲食事業のところが1項目ございます。そのところでラウンジと売店を分けさせていただいているところです。その他の業務というところが今回イベントの業務と当たりますので、それが1つの項目で分かれております。

事業計画書のほうにつきましては、その3項目で分けさせていただいているところです。事業計画書の第6、ページでいきますと30ページのところに記載があります。

【部会長】 事業計画書及び運営の基準ともに3項目になるわけですね、そういうことになれば。

【集客観光課職員】 管理運営の基準でいきますと、物販・飲食で1項目と、その他の事業ということの……。

【部会長】 その他の事業ということで。

【集客観光課職員】 はい、2項目。

【部会長】 その他の事業を具体的に言うと、イベント事業という言葉になるわけですね。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 では、シートにまとめるとき、どうしてその他の事業、つまりイベント事業という項目を設けなかったんですか。

【集客観光課職員】 そこのところは大変申しわけありません。

【川島集客観光課長】 すいません、ちょっとそこのところは記載しておりませんでした。

【部会長】 市の評価というところに、利用状況の中の、3行目あたりですけれども、利用者数減の影響により、利用料金収入は前年度比360万円減。自主事業においても前年度比1,000万円減。イベント事業はダイヤモンド富士やチュバチュバワンダーランド等、積極的に実施したため、自主イベント収入は前年比51万8,000円増と。だから、自主イベント収入という、この自主イベントの部分は独立した評価の対象にしないと、こういう言葉が出てこないんじゃないかと思うんですけれども。

【川島集客観光課長】 はい。そこはすいません、おっしゃるとおりだと思います。

【部会長】 では、ここで聞きます。ラウンジの飲食ではなく、物販でもない、自主イベントの収入の内訳は何ですか、

【集客観光課職員】 イベントの中でも有料イベントも行っておりまして、例えば、

ワークショップのイベントとか、そういったところの収入をこちらに挙げさせていただいております。

【部会長】 ワークショップのイベントは、誰からどういう形で収入が入るんですか。

【集客観光課職員】 来館者の、お申し込みいただいた参加者の方から収入をいただいております。

【部会長】 ワークショップ、つまり場所を貸す、ワークショップを出す出店者から徴収しているということですか。

【集客観光課職員】 出店者からは徴収ではなくて、実際にそれにご参加いただいた方であったり、あと共通パスの事業とか、それに参加いただいた方の参加費としてお預かりしています。

【部会長】 ごめんなさい、共通パスとまた全然異質のような気がするので、1つずつ言ってもらえませんか、収入内訳を。

【集客観光課職員】 例えば今申し上げているワークショップというのは、1階の無料ゾーンがありますので、そちらで行う、例えばクラフトの教室であったりとか、今、夏休みのイベントを行っているんですけれども、そういった有料のイベントに参加をいただいた方からの収入及び……。

【部会長】 ごめんなさい、その有料というのは何ですか。入館料とは別に。

【集客観光課職員】 1階は入館料がかからないものですから、そこで行うイベントの参加費用としてお預かりしているものです。

【部会長】 イベントは有料であると。有料のイベントを行っているということですか。

【集客観光課職員】 有料のものもございますし、全く参加費をいただいていないイベントもございます。

【部会長】 それがワークショップ。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 それと、先ほど言った共通パスが絡む収入もあるというような。

【川島集客観光課長】 それは遊覧船のポートサービスさんと一緒に運営させていただいて、ポートタワーの入館料と遊覧船の料金をワンセットにさせていただいて、一旦お預かりをイベントとしてポートタワーのほうに入金いただいているところを計上しております。

【部会長】 それは入館料じゃないんですか。

【集客観光課職員】 一旦お預かりしたところを、また、こちらのほうは移しかえをしているところでございますので。

【部会長】 もう一度わかりやすく、その点。共通パスポートというのは、遊覧船の料金とポートタワーの入館料ということになるわけですね。それは入館料にならないんですか。それとも、イベント収入になるんですか。

【集客観光課職員】 イベント収入として一旦挙げさせていただいていて、ただ……。

【部会長】 それはどの部分を？ 遊覧船の売り上げも？

【集客観光課職員】 遊覧船の売り上げもです。

【部会長】 も、こちらのほうで……。

【集客観光課職員】 はい、こちらでお預かりしています。それで、お互いの事業者の中で、例えば入館料が何%、遊覧船のほうは何%分で、船の分はポートサービス社のほうへお返しをします。

【部会長】 お返しする。じゃ、残るのはポートタワーの入館料比率ですよ。それが何で入館料にならないんですか。

【集客観光課職員】 今回、イベントとして計上しているところがございますので。

【部会長】 イベントだから。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 じゃ、イベントの際に入館した人は、入館料はどうなるんですか。イベント開催期間中の中の入館者。

【集客観光課職員】 イベント開催中の中の入館者の方は、自動販売機で基本的に入館チケットを買われますので、それはまた別物の形として計上しています。

【部会長】 別物の、どこへ行っているわけですか。

【集客観光課職員】 いわゆる管理運営業務のところの入館、利用料金収入として計上されます。

【部会長】 じゃ、入館料が……。本来入館料というのは、あれですよ。収入は、自主事業じゃない、利用料金になるはずですよ。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 それがイベントになると、自主事業の収入になってくるということですか。

【村杉経済企画課長】 ちょっと補足すると、要するに、イベントとしてポートタワーに上り、遊覧船に乗るというものをパックにして、イベントとしてチケットを買っていただくことがあるので、それは通常の指定管理の入館ではなく、イベント参加費としていただいて、その中身をポートタワーの入館料と遊覧船乗船料で後で案分して分けるというやり方をするので、便宜的にイベント収入として扱っているということだと思います。

【部会長】 いや、便宜的か知らないけど、それがどうして自主事業の収入になるんですか、入館料が。後で入館料と遊覧船料と比率で分けるということなんだけれども、あくまでも手元に残るのは入館料でしょう？

【村杉経済企画課長】 そうですね。イベントとして収入にしているという扱いですか。ちょっと説明が違ったらごめんなさい。

【川島集客観光課長】 すいません。話として、基本的には先ほどちょっとお話ししたクラフト教室だとか似顔絵の教室だとか……。

【部会長】 参加料ね。今は入館料の話をしているんです。

【川島集客観光課長】 そこのところは今、説明したとおりの扱いです。

【部会長】 だから、本来の利用料金収入に計上すべきだと私は思うんだけど、どうして入館料が自主事業の収入になるんですか。自主事業の収入が多いから評価が、これ。前年度比の増収があったとなっていますけれども。

自主イベント収入、金額が前年度比 51 万 8,000 円多いというんですけれども、この内訳はどうでしたっけ。資料の事業報告書の末尾ですか。

【村杉経済企画課長】 A 3 の 3 枚目に。

【部会長】 財務諸表の 1 枚前のペーパー、自主事業収支報告書。これも 3 項目に分かれています。販売事業とラウンジ事業とイベント等。この予算、決算ということなんですけれども、この決算の 290 万……

【川島集客観光課長】 290 万と 1200 円。

【部会長】 290 万円ですよ。収入の内訳はわかりませんか。

【川島集客観光課長】 申しわけございません。ちょっと今、ございません。

【部会長】 少なくとも、イベントとしてやった遊覧船との共通の際の入館料が、この 290 万円の一部を占めていることは間違いのないわけですね。ほかにあるのはイベントの参加費ですか。

【集客観光課職員】 そうです。イベントの参加費であつたり、こちらに書かれておりますように関連のグッズの販売であつたりとかいったところを書かせていただきました。

【部会長】 その関連での物販も……。

【集客観光課職員】 一部入ります。

【部会長】 イベント収入になるわけですか。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 物販というのは、例えばどんなものですかね。イベント関連での物販が自主事業に入っているのは。

【川島集客観光課長】 例えば、今回書かれているように、チュバチュバワンダーランドという千葉テレビさんのイベントが出店した場合に、キャラクターのグッズを販売したものであつたりとかいったものがこちらの計上に入っている。

【部会長】 キャラクターは、具体的にどんなものなんですか。

【川島集客観光課長】 具体的にと申されましても。

【村杉経済企画課長】 チーバくんとは違った、千葉テレビのキャラクターです。

【部会長】 はい、わかりました。

一応私は、自主事業中の、収入面でのイベント収入についての質問はこれだけでとどめておきます。

ほかに意見、質問、ございましたら。

【委員】 よろしいですか。今と関連しているんですが、事業報告書 15 ページの、指定管理者のところでもとめられた事業内容を見ると、(1) が売店運営、(2) がラウンジ運営になっていて、イベントについては全く触れられていません。そのイベントについて、市による評価だと 3 になっていますが、どうしてなのかなという感じがしました。

【委員】 それに関連して、将来にわたって、来期以降も利用料金収入というのは、一応ポートタワーの入場券を買われて上られる収入だけが、基本的に利用者収入ということではよろしいんですよね。ほかにも何かあるんですか。

【川島集客観光課長】 若干ですけど、望遠鏡を上を設置してございますので、そっ

ちのほうの利用料金も入っています。

【委員】 そっちのほうがありますね。そうですね。それらが基本であって、ほかのいわゆる船に乗られるようなことはイベントの収入であるという区分けをされていると。

【川島集客観光課長】 はい。

【委員】 今後ともそういうふうにされるということですよ。5の、市による評価に書かれている内容で、ここに書かれている独自の数字があって、ほかの資料には読み取れない数字が並んでいることがおわかりになりますか。大原部会長からのご指摘がありましたように、前年度比という項目は、ほかには載っていないですよ。ほかの資料には一切載っていないんです。基本的には、この資料は予算比なんですよ。前年度比という、前年の数字とのものは一切載っていないので、急にここに出てきているんです。確かに私も、この委員会での評価で重要なのは、単に計画比だけではなくて、前年度比はとても重要だということはずっと主張を続けているので、評価されることは反対ではないんですが、急にここだけ出てきていることで、わからない部分があるという指摘があったんだと理解しているんですけども。そこら辺がわかりにくいということです。

【川島集客観光課長】 はい。

【今井経済部長】 今のご指摘、確かにごもっともでございます。指定管理者の評価シートに関しまして、利用状況については、計画、それから前年度の対比で数字にあらわれているんですけども、収支状況に関しましては対計画比のみの数字でございます。

今、事務局で確認したんですけども、備考欄というところがあるので、そこに対前年度比の数字を入れることは可能でございますので、今年度は口頭だけのご説明で大変申しわけなかったんですけども、来年度以降、対計画比、それから対前年比を記載いたしまして、評価シートを見ていただくだけで明確にわかる形で改めてまいりたいと思っております。

【部会長】 もう少し、そのイベント事業に関連して。事業報告書の17ページに、(2)の経営状況という項目がありますけれども、その最後の2行、「平成26年度は、入館者につながるイベントの積極的な展開により入館者の拡大策を図るとともに自主事業の施策が連動した形で運営し、より来館者の満足度を高めたいと考えている」。つまり、イベントは入館者増につながるんだけど、その入館者増につながるものは、利用料金収入じゃなくて、あくまでも自主事業の収入になるということですか。

【今井経済部長】 先ほどご説明した、共通券で入館した場合に関しましては、共通券を1つのイベントとして、入館料は自主事業という扱いをしているんですけども、それ以外にさまざまなイベントがございます。例えば、1階の無料ゾーンでイベントをやったとき、あるいは周辺のポートパークでイベントをやったときに、そのついでという言い方は変ですけども、そこにお見えになったお客様がポートタワーに上っていただければ、それは利用料金収入としての、自主事業ではなくて指定管理業務のほうの収入になりますので、イベントを増やすことによりまして、その周辺にお見えになった方がタワーに上るといった効果を狙ったというところでございます。

【部会長】 となると、くどいようですけども、入館料が自主事業の中の収入に行くのは、船との共通券のケースだけであると。

【今井経済部長】 はい、そうです。

【部会長】 わかりました。

もう1つ質問させてもらいますが、評価シートの1ページ目の(3)収支状況という項目の中で、自主事業の収入と自主事業の支出の差額が損失だと思うんですけども、1,248万4,159円。自主事業の損失はそういう数字になるはずなんですけど、こんなに多大な損失、自主事業だからいいんでしょうけれども、この尻拭いは事業者がやるだけで、市は全く、幾ら損失が出ても関係ないでしたっけ。

【川島集客観光課長】 はい、おっしゃるとおりです。

【部会長】 そうですね。逆に言えば、本来の管理運営、維持管理についての収入、支出、シートの収支状況でいけば、委託料プラス利用料金が収入、支出が人件費、事務費、管理費の3項目ですよ。となると、この部分においては黒字であると。差額、利益としては989万6,537円黒字である。全体として赤字になっているのは、全て自主事業による損失が影響しているんだという見方でよろしいんですね。

【委員】 よろしいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委員】 事業報告書の17ページの経営状況ですけども、そこの3行目に、「入館者数は、前年を上回った月が5月と11月の2カ月で、大きく落ち込んだ7、8、10、2月の挽回ができず前年比マイナス11.5%とまずまずの結果であった」となっています。マイナス11.5と2けたも下がっているのですが、まずまずの結果と言うとそれほど悪くないと読み取れなくもありません。ここがこういう表現になったのは、天候の影響というのは先ほどご説明いただきましたけれども、それ以外で何かあるんでしょうか。

【川島集客観光課長】 天候以外の理由は特にはございませんが、24年度と比較した場合に、ここに出てきます5月と11月については昨年よりは若干増えておった部分がございます、それ以外の7月、8月、10月、2月でもって開館できなかった、これは天候の関係で開館できなかったものでございます。こういったところがございまして11.5%という結果になってしまったということなんです。

確かに、まずまずの結果であったという表現が適切かということになりますと、私も若干、表現としては適切ではないことと思います。

【委員】 わかりました。

【部会長】 もう1点質問させてください。資料の、運営の基準の25、26ページ、「第6 自主事業」というタイトルでの記載がある部分ですけども、まず共通事項、その次に物販・飲食事業、2、その他業務、これが、どうも先ほどから聞いているところのその他業務にイベント事業というのが当たるようなんですけども、26ページの下から6行目ですか、「(以下「自主提案業務」という)」とくくられている部分ですけども、26ページ末尾に、自主提案業務の料金設定については、事前に市と協議を行い、市の承認を得ることとなっておりますよね。先ほどの参加料というのは事前に承認を得ているんですか。

【集客観光課職員】 共通パスの料金……。

【部会長】 共通パスじゃありません。

【集客観光課職員】 ワークショップなどは、新規のものについては、こちらのほうに協議もありまして申請は受けているんですが、過去ずっと同じように継続していつているイベントについては、新たにこちらのほうへお伺いしてきているというケースではございません。

【部会長】 従前のものは別に新たに承認は得ない。じゃ、変更のない限りということでもいいですか。

【集客観光課職員】 そうですね。料金の微かな差はあるかもしれませんが、過去ずっと同じようなイベントについては、こちらのほうに報告はいただいているんです。

【部会長】 事前に承認を与えているということによろしいんですか。

【集客観光課職員】 はい。

【部会長】 じゃ、この年度で新たに料金設定をしたものは、具体的に何がありますか。承認を与えたものというのは。

【集客観光課職員】 今年度ですか。25年度ですか。

【部会長】 いろんな新しい自主事業をなさっているようなんですよね。自主事業というか、イベント。その中で、新たに発生した参加料はあるんじゃないんですか、なかったんですか。

【集客観光課職員】 夏休み、お正月、春休みに関連しましたところは、特にはございません。こちらのほうに提出いただいているのは、恋人の聖地を使ったバレンタインの企画と……。

【部会長】 それも参加費が伴うんですか。

【集客観光課職員】 参加費は伴っていないんですが、新規の事業としてこちらのほうに報告しています。

【部会長】 私が質問しているのは、参加料を取るなら、その料金設定について事前に承認を得たものが年度中にありましたか。

【集客観光課職員】 本年度、25年度については特に、こちらのほうにはお預かりしていません。

【部会長】 新しい事業を手がけた、イベントを手がけたようだけれども、参加費が伴うものは、新規のものはなかったということですか。

【集客観光課職員】 そうですね。新規のものというか、例えば、夏休みフェスタという1つのくくりがあれば、その中に細かい、詳細なイベントというのは増えているものもあるんですけども……。

【部会長】 それには一々ちゃんと承諾していきやいけないんじゃないですか、お金を取るんだから。

【今井経済部長】 すいません。細かい料金、若干の修正部分があるものはあるんですけども、大枠として、新規で新たに料金が発生するイベントは、25年度はなかったということです。

【部会長】 どうも自主事業が大幅な赤字になっている、その自主事業の中で何かイベントを果敢にやっているような印象を与えるんだけど、それがどういう収入をも

たらずのかというところをチェックを入れる必要はあるんじゃないですかね。

【今井経済部長】 確かに、イベントを各週やっておりまして、料金を取るイベントであれば収入にすぐに反映するんですけども、先ほど申し上げたとおり、ついでの入館を狙ったイベントに関しましては、イベントの企画そのものは自主事業で支出するわけなんですけど、実際の入館につながった場合のものに関しては、利用料金収入のほうに行ってしまいますので、もし仮に評価するのであれば、例えばイベントに参加された方が、どのくらいついでにポートタワーに入館して、料金を払って上に上ったかという評価が必要かと思うんですけども、必ずしもイベントを実施したことによって、収入に完全に結びつくところではないところでございます。

全ての実施事業が料金を取れば、当然、イベントの数が増えればどんどん収入も増えるんですけども、無料のイベントもありますし、繰り返しになりますが、ついでの入館を狙ったものもございまして、そういったところで、実施事業をやれば入館者が伸びるという相関関係を証明できないんですが、そういったものを狙って無料イベントをやっているというところでございました。

【委員】 そこが一番問題で、多分、イベントを何のためにやるかという、イベントの目的は利用者数を増やすという、ポートタワーの管理をやるのが前提なんですけど、組織の収入を増やすということではなくて、利用者を増やす、ポートタワーの直接的な収入を増やしていくというのが、そのためにいろんなイベントを仕掛けていくということが大切なので、先ほどの、イベントに含まれている入館料はイベントに入っているというのは間違いだと思うんです。やっぱり案分でちゃんと分けて、指定管理事業のほうにしっかりと入れ込んでやっていかないといけないと思います。また、そこが一番評価の対象になるので、だから、こういうイベントをこれだけやったので、ポートタワーの利用者がこの月はこれだけ増えたよ、あるいは、減ったということで、増えたよというのが一番評価の対象になるんじゃないかと思うんです。

ここに年間イベントが27ぐらいありますけど、これを見ても、何を目的ですかよくわからないというのがあります。それから、利用者数につながっているイベントなのか、あるいは全く関係のないイベントなのかということも、もちろん組織の維持管理のためのプラスアルファのイベントも必要なかもしれませんが、その辺のやっぱり明確にして実施する必要があると思います。

それからもう1つは、来訪者が減った、増えたという一番大きな変動をもたらすのは、多分、気象なんですよね。気象が悪いというのがマイナスの理由になっていて、増えた理由がイベントの利用になっているというのが、報告書の中の1つの言いわけになっているんじゃないかと思うんですけど、それはもちろん大事なんですけど、増減の明確な理由がちょっとわかりにくい。いろんなところに天気悪いと書いてあったり、イベントをやった増えたというのが書いてあるので、そんなのを全部、年別に一覧表にぱっと見られるようになっているとわかりやすいのかなと思います。

ですから、戻りますけど、まず一番大事なのが1個1個のイベントの目的をもう一度明確にする必要があると思います。例えばバレンタインの、恋人の聖地というのは入館料を払って入るんですけど。

【村杉経済企画課長】 はい。入らなければ行けない。

【委員】 ですね。ですから、そういうのは効果があるわけですね。中でやれば必ず入館料は払うわけですから。そういう効果が、多分大事じゃないかと思うんですけど。

【部会長】 とにかく、今の発言と同趣旨で、表現がきつくなるかもしれませんが、本来の収入であるところの入館料を増やすために、いろいろイベントを打って来客者を呼んでいる。そのイベントのくくりでいくと、自主事業部門の大幅な赤字、自主事業については尻拭いというか、それは事業者の勝手でしょうということで。事業者がこれだけ赤字を抱えながらも一生懸命来館者を増やそうとしている。次にこの事業を引き継ぐという人が果たして出てくるのかというめども見なきゃいけないんじゃないですか。努力はしているけれども、こんな赤字になっていくような自主事業をやらせておいていいのかという面もあるんじゃないかとも思います。これは意見のようなものですけど。

それで、勝手に話題を移らせていただきます。この一覧表の最後のページに、管理経費の縮減というところがありますけれども、管理経費の縮減には支出見積の妥当性、収入見積の妥当性、つまり、妥当かどうかはあくまでも計画額、予算額にどれだけ近いかによって何%達成というところで評価していく捉え方になっているわけですね。それに対して、まず支出見積の妥当性は、ほぼ前年並みなので2だと。前年度比較ではなくて、計画比でしょう？ 計画比で言うと、この数字は70.5%ですよ。次の収入見積の妥当性のうちの利用料金収入については評価1。これは予算比64.2、前年度比88.5%。それで評価1になる。

この基準は何ですか。70%を超えれば評価2、70を割れば評価1ですか。計画比が何で必要なのかというのを、この前も僕は疑問に思っているところなんですけれども。予算の立て方がまずかった、よかっただけの評価であって、前年度比較で収入、支出それぞれ伸びたか縮小したかというほうが、経費の縮減というにはふさわしいんじゃないかと思うんですけれども。どうしてこういう項目をつくるのかということを答えていただける方はいらっしゃいますか。単年度使い切り予算制度の宿命だと言われればそれまでなんでしょうけれども、継続事業という考えから行けば、経費の縮減というのはどういうものなのか、前年度比ということになるんじゃないですかね。

【今井経済部長】 申しわけありません。確かに、部会長がご指摘のとおり、一番最初に指定管理の計画を出したとき、5年間の計画に基づいてどうかという形になっておるんですけれども、実際に指定管理業務が始まりまして、各年度ごとに当然単年度の予算をつくっていくわけございまして、その事業計画書も出てきて、それを指定管理の実施機関もチェックをしていくわけございまして。

したがって、具体的な方法として今申し上げることはできないんですけれども、5年間の計画プラス単年度ごとの実態に合った予算案と、両方で評価する方法を考えていきたいと思っています。

具体的な方策につきましては保留させていただきたいんですけれども、ご意見としては確かに承りましたので、担当とも協議をして、よりわかりやすい評価ができる形を考えてまいりたいと思っています。

【部会長】 この一覧表のつくり方ですけども、収入見積の妥当性には利用料金収入と自主事業収入。収入は2つに分かれている。支出見積の妥当性のところでは、分けられないで評価が出てくるわけなんですけど、これは収入と対応する形で支出も分けるべきではないんですか。

【今井経済部長】 ご指摘のとおりでございます。今年度はこの形になっておりますけれども、次回は指定管理事業と自主事業のほうにそれぞれ分けて妥当性を評価したいと思います。申しわけございません。

【部会長】 その関係で、支出見積の妥当性は評価2になってはいますけれども、これは評価1にせざるを得ないという意見です。というのは、自主事業のほうの収入見積を見ると予算比88.8%と、そこそこに達成されているわけですね。それが大幅な赤字を生み出しているのは何かというと、自主事業にあまり関係ないんだから首を突っ込むなということになるのかもしれませんが、これだけずれ込んで赤字が出てきたのは、支出見積の妥当性に誤りがあるということで大きな数字が出てきているわけですから、これは評価1にせざるを得ないんじゃないですかね。

2つに分けないで支出比でやると、先ほど計画比が70.5%という数字になると、私、事前に計算してきましたけれども、これが自主事業だけだと計画比はどうなるんですか。シートで言うと、②の支出、自主事業費、実績が8082万円……、え？ 計画比105%、その程度のずれですか。そうですね、この数字でいけば。じゃ、何がこの赤字をこれだけ生んだ原因なんですか。いずれにしても、先ほど言ったように、このシートから行けば自主事業の損失が1,248万4,159円という数字になるはずですよ。計画でいけば自主事業だけでプラスになるはずですよ。

【今井経済部長】 そうですね、若干のプラスが出るという計画にはなっておりました。ただ、実際決算のほうでは自主事業の収入が落ちました関係で、それと相対的に支出が上がってしまったということで赤字幅が広がったという結果でございます。

【部会長】 一覧表の最後ですよ、自主事業の収入というのが。そんなに落ちてはいるんですか。イベントなんかは実績がプラスだっていうんですよ。

【今井経済部長】 そうですね。

【部会長】 ちょっと質問が……。いろいろ質問しましたけれども、意見という形で、一覧表の管理費縮減のうちの支出見積の妥当性の項目についても、自主事業と管理運営事業と分けるべきではないかという意見を述べたと理解してください。

ほかに質問、意見はございますでしょうか。

【委員】 はい。

【部会長】 お願いします。

【委員】 市にお伺いしたいんですけども、ポートタワーの位置づけというか、市としてはポートタワーとはこういうものかというのをお聞きしたいんですが。

【今井経済部長】 昨年度来、集客に関しまして、外部の人材なんですけれども集客プロモーション担当課長が就任いたしまして、今、海辺と緑、両方をプロモーションの対象にしております。海辺のほうに関しましては、これはご存じかもしれませんが、浜を5つに分けて、それぞれの魅力ということで、売り込みといたしますか、プロモー

ションを図ったところでございますが、中央港地区につきましては、これから整備されます中央港の棧橋、それと既存のポートタワー、それと、県のものになりますけれども、周辺のポートパーク、これは非常に、私どもにとって貴重な観光資源だと思っております。

ただやはり、どうしても単体で集客をすることは非常に難しくなっておりますので、今後課題といたしましては、それ以外の施設といかに結びつけるか、あるいは、今申し上げた5つのビーチを横断してとかいったことを考えていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、ポートタワーに関しましては、集客のための1つの中核施設と考えています。

【委員】 先ほどの皆さんのやりとりを聞いていて、ここは意見ですけれども、この指定管理者を選ぶときに、三越さんはビルの管理の会社ですよね。ビルの管理に関して、ランドマークとしてのポートタワーという存在を維持していくところではちゃんとできているんじゃないかなと思いますけれども、やはり集客というところでノウハウが不足しているのかなと。物販だとか飲食というところは三越さんもやっているところなので、そこに任せることで、そこうまくいくだろうという判断があったと思いますけれども、そのこのところを、この状況を考えて、ほんとうは得意分野で切り分けるほうがいいのかなと。27年度までの指定期間があるのでこのまま行くんでしょうけれども、この先は、それも考えていくべきではないかと思いました。

【今井経済部長】 はい。ありがとうございます。

【委員】 それから、26年、27年度と、あと2年間ありますから、そのこのところで、周りの協力というのをどうやってとっていくかというときに、例えば夜景が1つの売りだから、夜景のイベントをもっと盛んにしていきたいと思いますというご意見がありましたけれども、それは具体的にどうしていくのかというところをお聞きしたいと思います。

それから、さっき出ていたように、いろんな自主事業が27もあって、その1つ1つにどれぐらいの方が参加されて、どれぐらいの方が上に行かれたのか。ついでに行かれることを想定していろんな事業をしても、ついでに行かないという事実に対してどういう方策を打っていくのかというところは、もっと三越さんのところと一緒に協議しながら、知恵を使っていかなければならないんじゃないかなと思います。

もう1つですけれども、例えばポートパークさんのバーベキューなんていうのはいつも満杯な状態だと思います。だから、それとうまくコラボできたりとか、そういう外 of の状況を見て、バーベキューをやって下の公園を楽しむ、それから上に上がってきて夜景を楽しむみたいな企画を総合して、企画ができるんじゃないかと思います。それは、今いるポートタワーのスタッフの中にそういう知恵がなければ、利用者とかの意見交換会だとか、それから周辺の施設の人たちの協議会だとかを大いに利用して、そこら辺の連携も図ってはどうかと思いました。

【今井経済部長】 ありがとうございます。ご指摘がありましたとおり、施設の維持管理だけをしていればいいというわけでは当然ございませんので、そこに関しましては、今後周辺と連携を図るとともに、市のほうもやはりもう一度積極的にアドバイスという

んでしょうか、指定管理をしているか、任せっぱなしではなくやっていきたいと思っております。ご意見、ありがとうございます。

【部会長】 ちょっと時間の関係もありますので、もしこれでご発言がなければ、明確に意見という区別で捉えていただけたかどうかわかりませんが、委員会の意見ということで事務局で取りまとめる間、しばらく休憩としたいと思います。お願いします。どのぐらい休憩をとりますか。

【村杉経済企画課長】 10分程度お時間をいただきたいと思います。

(休 憩)

【部会長】 それでは、再開します。

取りまとめた意見案について事務局より説明をお願いいたします。

【村杉経済企画課長】 経済企画課長でございます。文言として、若干雑駁ではございますが、まとめたものを読み上げさせていただきます。

今回、千葉ポートタワーへの年度評価ということでございますので、指定管理者への評価、今後の期待を含めた部分を中心に文言にしております。

よろしいでしょうか。読ませていただきます。「おおむね適切な管理運営が行われているが、イベントの実施に当たっては、その目的を明確にするとともに、夜景の活用など、周辺施設との連携を進めることにより、入館者数の増加を図られたい」という文言にさせていただきました。

それで、皆様からいただきました管理シートの作成の項目立てと表記方法については市側のシートのつくり方の課題になりますので、今回の議題ではないんですけれども、私どものほうで、市としてこの対応策について検討するというところで、ここにつきましては、今回の意見からは割愛させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【部会長】 ただいまの説明に対しまして何かご意見等がありましたら、ご発言をお願いいたします。

はい、どうぞ。

【委員】 先ほど部会長が言われた、5年計画はどういう評価なんですか。ここではそれは関係ないんですか。5年間の目標達成の評価が見えるような配慮も必要なのは。

【村杉経済企画課長】 そうですね。ここも、5年計画というのは市として設定したものでございますので、それに対してどう評価するというのは、ちょっと中で検討させていただいて。申しわけありません。あくまでも指定管理者の年度評価をどうするかという審査の場なので、そこは別の議論と考えさせていただいて、ご意見として賜りましたので、こちらのほうで検討させていただきます。

【部会長】 ほかに意見はございますでしょうか。

それでは、千葉ポートタワーにおける指定管理者による施設の管理運営に関し、当部会における意見としては、ただいま課長さんからいただいた意見のとおりということで決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 じゃ、皆さん異議がないということで、その旨決定いたします。

千葉ポートタワーについては以上です。

なお、本日、部会として決定いたしました意見の文言の整文等につきましては、私にご一任願います。

以上をもちまして、平成 26 年度第 1 回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を閉会いたします。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。

【村杉経済企画課長】 委員の皆様、お疲れさまでございます。私のほうから、幾つか事務連絡を申し上げさせていただきます。

まず、本日の議事録でございますけれども、後日、皆様に内容のご確認をお願いすることとなりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

次に、今後の予定でございますけれども、常任委員の皆様につきましては、次回第 1 回の産業部会が 8 月 6 日水曜日に開催されます。ご出席のご予定のほうをお願いいたしますと存じます。

また、臨時委員をお願いしております古賀委員様、西田委員様におかれましては、本日の部会をもちまして、本年度の審議事項を全て終了いたすこととなります。本日が、今任期中での最後の会議となりますので、ご多忙の中、ご審議をいただきましたことを、この場をおかりして感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。なお、任期は来年、平成 27 年 6 月 13 日までとございますので、当会議録、議事録の確認、また、本市観光施設等へ対するご助言等を引き続きいただければ、ありがたく存じます。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了させていただきます。まことにありがとうございました。